

B-32 市販洗剤の増白効果と漂白剤の影響

大分大教育 ○都築 京子
お茶大家政 林 雅子
 矢部 章彦

1. 家庭洗濯の立場から、蛍光増白染料を配合した数種の市販洗剤の増白効果におよぼす漂白剤併用の効果を検討した。

2. ①繊維試料 晒金巾 2003 番(増白染料未処理布)ほか、市販の各種繊維白布 7 種を用いた。②洗剤 ブルーダイヤ・アルコカラーほか、市販洗剤 7 種を用いた。③漂白剤 花王ブリーチほか、塩素系の 6 種の家庭用漂白剤を用いた。④処理条件および判定方法 それぞれ $45 \times 30\text{cm}$ の繊維試料を、洗濯用の補助布にとりつけ、洗剤・漂白剤の各指定濃度溶液で、漂白剤のみ、洗剤のみ、洗剤と漂白剤同時処理、漂白後洗濯などの諸条件で洗濯機により 40°C 、15 分の処理を繰り返し、処理布の白さをキセノン白色光源による分光反射率曲線の測定を基礎として比較検討した。

3. 増白未処理布の場合、洗濯のみ、および漂白後洗濯の場合の白度増加が顕著であるのに対して、洗濯と漂白の同時処理では、漂白剤による洗剤配合の増白染料の分解から、 $435\text{m}\mu$ 付近の反射率にかなりの低下がみられ、この傾向は処理回数を重ねるほど著しい。市販増白処理白布にも同様の傾向が認められるが、初期の低下率は増白未処理布に比べてやや少ない。これは市販白布の増白処理(染料の種類・濃度・染着状態)の差異によるものと思われる。